

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームふきのとう北松園 2Fユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100220		
法人名	有限会社 エムズ		
事業所名	グループホームふきのとう北松園 2Fユニット		
所在地	盛岡市北松園四丁目36番87号		
自己評価作成日	平成30年8月8日	評価結果市町村受理日	平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390100220-00&PrEfCd=03&VerSi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から7年目を迎え、理念のもと入居者様、ご家族様、職員が共に寄り添い、共に笑顔で過ごすことができるように様々な行事を企画して交流が図れるよう取り組んでおります。
また、少しずつではありますが近隣の方々とも顔馴染みとなり町内会行事への参加や保育園児、ボランティアの方々との慰問により地域との繋がりを深めるよう努力しております。
ふきのとう独自のサービスで専任のアロマセラピストによりトリートメントの施術を提供し大変喜ばれております。
職員は、外部研修、月に1～2回の内部研修を行い、グループ全体での事例発表にも取り組み、技術の向上を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念「共に寄り添い、共に笑顔、その人らしく過ごせる環境作りに努めます」と、傾聴し心に余裕を持った介護、職員の資質の向上等、5項目からなる介護理念を定めている。共用の広いホールでは、介護理念の一つ「残存能力をひきだす介護」として、独自に工夫した朝の体操を行なっている。午後になれば、言葉遊び、百人一首等に興じる利用者、職員の明るく元気な声が響き渡る。また、アロマセラピーを取り入れるなど、理念の実現に向けて工夫し、日々努力していることが窺われる。事業所内研修以外にも法人全体で事例発表を実施するなど、職員資質の向上に取り組んでいる。自治会に加入し清掃等の行事に参加している。法人で行っているふきのとう祭りは地域の行事として定着し、毎年チラシを配布し、散歩の際に声掛けしてご案内し、子どもを含め多くの地域の方々に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームふきのとう北松園 2Fユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに掲示しており、毎朝、申し送り時には理念の唱和を行い、日々のケアに取り組んでいる。	運営理念を各ユニットに掲示し、朝の申し送り時唱和している。朝の挨拶に、接客用語（おはようございます・ありがとうございます・申し訳ございません・かしこまりました・お疲れ様でした）を利用者と一緒に発声している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域行事の参加や一斉清掃など地域の一員として日常的に交流している。また、地域のボランティアを募ったりして交流の機会を増やしている。	自治会に加入し、事業所の行事に参加・協力を頂いている。納涼祭では、利用者の家族や地域の方々（子ども含む）90人位参加し、ボランティアの庄が畑さんさを一緒に踊って楽しんだ。保育園との交流も継続しており、お遊戯会などの練習を見せに来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生を福祉体験で受け入れをして認知症の方の理解や支援方法を説明させて頂き、また接することで理解してもらう機会となっている。地域の方々を行事に招いて交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、活動報告、研修報告、事故報告等報告している。また、テーマによってゲストを招き情報や助言を頂き、また、メンバーの方々からも地域の様々な情報や意見等頂きサービス向上に活かしている。	会議は2カ月に1回開催し、利用者も委員になっている。各委員から、活動報告に建設的な意見や感想が述べられ、充実した会議となっている。オブザーバーとして、地域の保育園の園長と消防署松園主張所の署員が出席しており、今後、駐在所員の参加を検討している。職員の参加も予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の申請、更新時の連絡と運営推進会議の議事録を持参し、関係づくりに努めている。地域ケア会議へ出席している。	松園・緑ヶ丘包括支援センターが主催の地域ケア会議に参加し情報を得ている。推進会議の議事録や更新申請等持参し、担当者に指導助言頂いている。電話での報告相談も実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、委員会を開催している。研修は、年2回行い、全職員が拘束がもたらす弊害を理解し、また、スピーチロックなど意識して適切な介助で拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置している。委員会での取り組み内容について職員にアンケートを実施し、結果について話し合いをした。委員会は年4回、研修は年2回予定している。スピーチロック等不適切な行為による拘束をしないケアに取り組んでいる。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体と施設内研修で年2回研修を行い、利用者が安心して生活ができるよう話し合い、意識し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を行い理解している。現在、この制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に必ず、事前説明を行っている。契約書を十分に説明し疑問点を訪ね、理解して頂き納得された上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。面会時や行事参加、また運営推進会議の際など意見、要望を伺い運営に反映させている。	運営推進会議や家族懇親会(年に1回)で意見や要望を聞いており、家族がお手伝いできる行事はないかと言われている。早めに行事の予定を知りたい等の意見には、毎月発行の広報誌「ふきのとう」に行事計画を掲載し喜ばれている。面会時には、家族の意向を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、ユニット会議、個別面談などで職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	職員とは、申し送り、ユニット会議(月1回)、個別面談で、意見・提案を聴いており、日々の会話にも耳を傾けている。重複している記録の整理、退所の際にお渡しする利用者個々の思い出ノート作成等の提案が職員からあり、取り組んでいく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、勤務状況を把握し、昇給、賞与に勘案している。職員の考えや意向を聞き、職場環境の整備に努めている。希望休も可能な限り応えられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行っている研修を含め、月1～2回研修会を行っている。外部講師を招いたり、また経験やスキルに応じて外部研修や資格取得に向け研修を受ける機会の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例研修会に出席し意見交換や交流を図っている。 地域ケア会議に出席をしてサービスの向上にもつながっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや事前調査の際には、本人の要望、不安等を把握できるように努めている。 必ず訪問し本人のペースに合わせ、話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での様子や入居までの経緯を伺い、不安なことや要望、また介護疲れや様々な思いに寄り添い話しやすい雰囲気や関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を伺い、必要時には担当ケアマネジャーとの相談をおすすめしている。また、緊急を要する場合は他の施設を紹介するなど柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が援助するだけでなく、一人ひとりの力に応じたことを日常的に食事の準備や花の世話など一緒に行い共に生活しているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事にご家族に参加して頂き交流を図っているまた、日頃の様子を便りや電話でお伝えし、共に相談し意見を出し合い本人が穏やかに生活ができるよう支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状のやりとり、馴染みの人の面会、外出、外泊など積極的に支援している。 毎年、お墓参りに行かれる方、またお孫様の結婚式に出席された方もおり、大変喜ばれてお話を下さった。	手紙や年賀状の返事をお手伝いしている。 携帯電話で兄弟と連絡している方もいる。敬老会等の行事には家族を招待し、お祭見物を通じ、地域の方との馴染みの関係も出来てきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように座席位置を考慮し、また会話や役割を通して円滑な人間関係を築けるよう支援している。各ユニットが気軽に交流が図れる環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこちらから様子を伺ったり、またご家族からの連絡で利用者の様子を聞くことができたりと関係が継続できるよう努めている。在宅へ戻られた方がおり、その方に合ったサービスを本人、家族と話し合い経過をフォローし支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向について本人に伺い申し送りの中で検討したり、困難な場合は、行動、表情からくみ取り気づきノート等に記録し日々、検討している。	日々の会話で把握できることが多い。言葉で表現できない方も、行動や表情から汲み取り記録している。夜間帯の寝静まったときや入浴介助時等、一対一の時に本音が聞けることがある。夜間に餃子を食べたいと要望され、翌日利用者と手作りして食べ喜ばれたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族やこれまで関わってきた事業所からも情報収集し、馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個々のペースで生活できるように支援し、毎日の関わりを申し送りや気づきノート等で個々の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアミーティングや担当者会議、毎日の申し送りでの情報をもとにプランに反映し、また本人や家族の意向を確認している。主治医の助言も参考にして現状に合ったプランを作成している。	毎日の申し送りや経過記録、気づきノートを活用し、プランに反映させている。ユニット会議では、居室担当が職員に、ここはプランに載せますか等聞き取りをしている。サービス担当者会議には家族も参加している。作成したプランは、職員全員で確認し、ケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや経過記録、気づきノートの活用で情報共有しケアに活かしている。3ヶ月ごとのモニタリングを実施し、必要時にはプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望により訪問歯科、訪問看護、福祉用具、介護タクシー、理美容院などとその時々生まれるニーズに対応しサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	松園という地域資源としても恵まれた環境の中で地域との交流行事やボランティア等を活用し、本人が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご家族にお願いをしている。定期通院等、主治医宛に受診連絡票を持参して頂き、また事情により主治医に連絡をして助言を頂いたり、適切な医療を受けられるよう看護師、ソーシャルワーカー等との連携を密にしている。	かかりつけ医への通院は、主治医宛の受診連絡表を持参し家族が付き添っている。緊急時や状況説明に職員が同行することもある。それぞれの医療機関とは連携が図られ、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、週1回体調管理で訪問して頂いている。訪看ノートを活用し体調変化を細かく報告、相談、助言を頂き、状態により通院の判断や主治医へ報告されることもある。必要のある方は医療処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様の情報提供を行い、入院中は、面会に行き状態を把握し病院関係者と情報交換や相談を密に行い、利用者様、ご家族が安心できるよう関係づくりの努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でグループホームでできる事とできない事、指針の説明を本人、ご家族へ行い、話し合い、意向を伺っている。状態の変化でご家族と密に話し合ったことで最終的に意向に添うことができた。	入居時に、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を示し、ホームでできること、できないことを説明し、看取り等の意向を確認している。状況に応じて、その都度意向を確認し、医師、家族、訪問看護師と連絡し対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防署に依頼し、緊急時の対応として救急蘇生法等の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、日中と夜間を想定した火災訓練と地震、風水害の訓練を行っている。災害時のための備蓄の確認もしている。また、地域の防災訓練への参加、火災訓練では、近隣住民にも協力を頂きさらに今後も地域との協力体制を築いていきたい。	消防署の立会いを含め、年3回の火災、災害避難訓練を実施している。運営推進会議の委員に、近隣への協力依頼をお願いした。火災訓練には、近隣の方が参加し見守りをして頂いた。災害時に備えての物品等の準備も行なっている。	夜間想定避難訓練を実施しているが、今後、実際に暗さを体験し、課題を把握し対応を検討して頂きたい。訓練は、一時的に消灯する、車椅子での移動を体験する等、小さな訓練から始められ、積み重ねていかれる等工夫されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を傷つけないように「もし自分だったら」と自分に置き換えて言葉かけや対応を心がけている。接遇、プライバシーの研修を行い、振り返りも行っている。	接遇について外部講師に学んでいる。職員は、もし自分だったらという意識を持って、ケアを提供している。特に、トイレへの誘導時の声掛け、入浴時の羞恥心への気配り等配慮しており、常にケアの見直しをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や活動など様々な場面で選択を頂いたり思いを表せない方は、表情やしぐさ等からお思いをくみ取り自己決定に近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聞きながら自分のペースに合わせ添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類やヘアスタイルなどお聞きしている。鏡を見ていただくなど声をかけている。イベントでは、お化粧を喜ばれたり、いつまでもおしゃれを楽しまれるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の口腔体操、献立の紹介や挨拶をしていただいている。職員と一緒に盛りつけをしたり畑の野菜を収穫して浅漬けを作り、また餃子が食べたいと希望があった時は、皆さんで作って大変喜ばれていた。	食事の前に利用者が、献立は事業所の畑で収穫した物、近所の方からの差し入れ等を説明し、頂きますの発声で食事を始めている。敬老会、大晦日等行事食には、天ぷらや刺身の盛り合わせ等楽しんでいる。夜勤帯に餃子を食いたいと利用者の意向を受けて翌日利用者も一緒に餃子を作り喜ばれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛りつけ、形態、量など一人一人の状態に合わせて対応している。また、塩分、水分、体重制限がある方は、医療面、栄養士からの助言を頂きながら支援している。毎月、体重測定を実施している。ミキサー食のニーズが増え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し行っている。一人ひとりの状態に合わせて対応している。口腔内を観察し必要に応じて介助している。義歯は、洗浄液につけ、清潔保持ができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員が日中、トイレにて排泄できている。排泄パターンを把握してそれに合わせた声かけをして、失敗を減らすよう努めている。	夜間熟睡している方に夜間のみおむつを使用しているが、起床時はトイレに誘導している。自立の方は、機能が維持できるよう支援している。また、リハビリパンツに尿取りパット等排泄用品を機能に合わせて使用し、トイレでの排泄自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、薬の影響などを理解し、対応等検討して予防に努めている。食事の工夫、牛乳水分摂取を促している。排泄困難時は、温タオル、腹部マッサージを施行している。また、体操に腹部マッサージを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほとんどの方が入浴を楽しみにしており心地よく入浴が楽しめるよう支援している。体調や疾患があり熱いお湯や長く入れない方には、説明をして入浴して頂いている。	毎日浴室の準備をし、利用者は1日おきに入浴している。熱い湯や長湯したいの要望には、心臓疾患等安全面を考慮し希望に沿えないこともある。入浴を嫌がる方には、介助の職員を替えたり、時間を変更したりし入浴できている。介助時は、話をしたり、一緒に歌いながらリラックスさせるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室や共有スペースで休んで頂き安心して休息している。休みたいと思った時に休めるよう状況に応じて対応している。寝具や照明、温度湿度環境などこれまでの習慣を考慮し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を確認し理解している。服用時は、必ず職員2名でダブルチェックを行い、飲み込むまでの確認を徹底している。薬の変更時で体調等で変化が見られた時は、主治医や訪看に相談して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中から、たくさんの楽しみ事などを伺うことができ、また季節の行事や誕生会など日常生活の中で取り入れることでイキイキしている。今後も張りのある生活が継続できるよう支援したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて散歩に出かけることや畑での収穫や草取りを日課としている方もいる。また、ご家族と食事などに出かけられる方々もおり出かける機会を継続できるよう支援している。	今夏は猛暑で大変だったが、体調や天候に合わせて、散歩や畑作業等外に出る機会を多くしている。定期的に家族と外出・外泊される方もいる。本人の東京にいる姉に会いたいという希望に、家族の協力で実現できている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、自己管理できる方はご家族の了承のもと所持していただいている。ご自分のお財布から床屋代の支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で孫様と電話を繋ぐこともあり、今後も継続できるよう支援したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で過ごされることが多く常に整理整頓に努め、清潔を保ち消毒も徹底している。室温、温度、太陽光などにも配慮し居心地良く過ごせる空間を工夫している。交流ホールは、面会など様々な用途で利用されている。心身リラックスのアロマスプレーをしている。	共用のホールは広く、食卓、テレビ、ソファ(テレビに向かって楕円形(半円))を配置し、ゆったり寛げる場所となっている。整理整頓・消毒を徹底し、清潔が保たれている。10時には円陣になってリフレッシュ体操をしている。15時ごろには、言葉遊び・百人一首等の元気な声が響いている。センターテーブルでは、職員と一緒に絵を画いている。ホールに、心身リラックス効果のあるアロマスプレーを使用している。交流ホールは家族の面会や職員の休憩スペースになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	横になったり足を伸ばしたりできるソファがあり、交流ホールで読書やスケッチ、日記を書くなど思い思い好きな場所で過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に努めている。ご本人の馴染みの物、家族写真や思い出の人形を飾ったりしている。テレビを置かれている方もおりご自分の時間を大切に居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	居室には、パネルヒーター、エアコン、空気清浄機、整理タンス、ベッドが備えられている。窓の内側に小物置の棚がしつらえてあり、花や写真を飾っている。馴染みの家具や椅子テーブルを持ち込まれている。テレビを置かれている方もいる。居室にも、アロマスプレーをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害となる物などは、その都度片付け、お手伝いをしていただくなど利用者様の意向や行動を妨げないよう環境整備をしている。		